今年は19

4 5

自分たちがつ

事変などの背景は、昭 だと石井先生は解説する。 などによる経済の悪化が原因 考えた。張作霖爆殺事件、満州 の映像や再現

当 映 |時日本の 像なども視 勝利 聴 すで 難

れなくなってしまったのかをは、なぜ日本が戦争を止めら 石井智先生による夏期講習 「歴史探究『戦争と平和』」で 、4限に行われた社会科の8月21日 (木)・22日 (金) 史 の 和恐慌

「なぜ日本が戦争を止められ

「なぜ」 を考える 「戦争と平

歴

なくなってしまったのか」

和 んでしまった理由は軍部にだれていたが予測されていたが、 世間の空気が開けでなく国民、 の常任理事国は拒否権を保有発足するが、安全保障理事会 とを知らされた時の当時 人々の反応は肯定的 は説明した。実際、開戦するこ 後、1945年に国際連合が たことにある、 かったという。 間の空気が開戦ムードで つまり当時 日本の敗 と石井先生 なもの がの あ 0

戦争に負けるとわかっていて るか、と生徒に問いかけた。 全保障理事会」は機能してい のか?について、考えてみてるのではなく、それは本当な からしょうがないで終わらせ 府や国民が軍に騙されていた 目的について伺った。石井先 先生は、現在の国際連合の「安|れた。している。 授業の最後で石井 |欲しか 石井先生に授業後、講義の

生は、この授業を通して「なぜ」はダメな事で絶対にまた起こ も開戦してしまったのか?政 でなくそこからどうしたら平 詰めて考えるべきだと学んだ そもそも平和とは何かと突き 和な世界を実現できるのか、 してはいけない、と思うだけ 月さん(1K)は、「普段の授れた。講習を受講した滝澤結 振り返る。授業を通して、戦争 考えることが出来ました」と 業では考えられないことまで

昔の人には、感謝してもし から、こんなに豊かで自由で 起こっていたかもしれない。 でもしかしたら今、この時に れません」と語ってくれた。 幸せな世の中を造ってくれた そう思うと、あの悲惨な状況 (1 C) は 起こった出来事というだけ 講座を受けた齋藤朱里さ 「たまたま を見てと 80 年

像作品を見ることでいてほしい。その一歩とこ を肌で感じることが ないために、日本人 大切さが身に染 時の人々の生活を知 戦争の流れだけで く世界中の人がもう あの悲惨な日々を ることの なく、 界になっ 二度と、 できた。 80年前 繰り - 菊 当

と言われる。実際に会って、見て、五感で感じて考えて。私戦争を実際に体験した方がまだ生きている、ぎりぎりの時代た皆さんも語り継いでほしいです」と話してくれた▼今は、も被害者にもなるため「今日の戦争の被害加害について知っ

げなけ. たちが.

いけるように、実いなければいけなたちが手を伸ばして言われる。実際

和へのタスキを受け取り、

正確に未来に伝

えて

られる機会を大

実際に ないと思う。

お会い

を知ってほしいそうだ。「知るた当時の生活や価値観の違い」 は、全然違うけん」と言い、講機会があるのとないのとで な講座を行ったという森本先 う節目の年にも、今回のよ10年前の戦後70周年と 会を教えるきっかけになった 全然違うけん」と言い、講 かったです」と語ってく 原爆などの被害だけで 自由が制限されて 地元を離れ東京で社 、今回のよう

るきっかけにしてほしいと錦 でも戦争・平和について考え座を通して節目ふしめで少し 城生にメッセージをくれた。

やるべきだと思います。 も感動したそうで 見ていたら号泣して 図書室には戦争コーナーが 4 月カ また、1A 事に書かれている『はだしのゲン』な ど戦争に関連した本が並べられてい る。 \mathcal{O} を全校で いたとも 女子生徒 もるようになっているので、興味のあ と講 る人はぜひ行ってみてほしい。(梅) 家で

講 答えた▼そのワークショップでは、講師のシャープ茜さんをで として高校生に戦争について伝えていきたいと思います」と徒 たちは「これからも知り続けていくことに加えて、新聞委員も 演を受けこれからどう行動していきたいかという質問に、私で ップでは、講演後中日新聞の記者さんから取材を受けた。講の責任だ▼取材で参加した小平市小川公民館のワークショ ち若者が戦争を知ることの大切さ、それをつないでいくことと話してくれた。取材した方々の多くが口にしたのは、私た ってしまう今、戦争を体験していた
▼お話を伺った西東京市郷土資料
どに触れたりする中でそうではな 材で直離休 って次へ引き渡していくのかが大切だと思います」ってしまう今、戦争を体験していない人が、どうや 直接被爆者の方とお会いし雕があるように感じていた怀み前までは「戦争」と聞 は、「戦争遺跡がどんどん減って 感じていた。 京市郷土資料室文化 聞 したり、 ないことを かしこの夏、 ŧ 実物の 自分とすご 指導 知った 蒷

「『はだしのゲン』知っている人—!」

「はだし

のゲン」の主人公の

ろうと考えていたそうだが、京。実は広島に戻り教員にな

大学3年生の教育実習で公民

ていたように国の考えに反対につかまり暴力を受けたりし 父親が戦争に反対で、警察官

ると、取りしまわれてしま

や8月9日がどんな日なのか 広島と比べて東京は8月6日の国際平和の授業を担当し、

はなく、 の生。 か、80

3つ目は果たして戦争を

るのか、目的を達成されるの

うパ

教師として戦争や平和にーソナリティを生かし

講習を受けてみて

座を振り返った。

* *

Z

が少ないと思ったからだ。シャープさんは、戦争は加害者にの流れや被害について習うが、加害の側面に触れられること取材した。私はシャープさんに、日本の加害の歴史が隠され致した。私はシャープさんに、日本の加害の歴史が隠され答えた▼そのワークショップでは、講師のシャープ茜さんを

ついたという。広島出身とい も知らない生徒が多いと気が

という点。多くの場合、

玉

して幸福を得ることができ

いをするこ

をすることになる。また、

国民もひもじい思

広島で過ごし、大学進学で上

と話してくれた。

せられていた。物資は兵士

般の人も後方支援をさ

まれた時から高校時代までをに話を聞いた。森本先生は生

二次世界大戦では総力戦とし

夏期講習を終え、

森本先生

いて伝え続けようと思っ

啓治さんが自身の被爆体験を 映像作品を通して考える 基にした漫画で、 ジテレビで放送されたドラマ 物語」では、まず 生による夏期講習「広島今昔 広島を少年が生き抜こうとす に行われた社会科の森本慶先8月23日(土)の5、6限 した。『はだしのゲン』は中沢 『はだしのゲン』前編を視聴 18 戦中戦後の 年前にフ

考えた。 えて正面に立てなかったと話 とを想像したら怖くて足が震 えてくれた。 今の広島の街並みの違いを教和を伝えたことに触れ、昔と をすることで野球を通して平 員が86の背番号をつけ試合は、今年広島カープが、選手全 る姿が描かれる。 視聴後、それぞれが平 ムを訪れたとき、当時 野球好きな森本先生 大学生で原爆ド めこ 和を 広島に行ってほしいと思いま

らえれば」と述べた。 自由を制限するから。特に第 人を奪ってしまう。 2つ目 牲が前提で、家族など大切な 人道的だということ。 す」と話す。森本先生が戦争を に考えてほしいことがあり れ、「ぜひ大人になっていく間 「非」とする理由は、戦争が やウクライナの紛争に 森本先生は最近のイスラエ 人の犠 は 触

平和を考えるきっかけに

「生で原爆ドームを 見てほしい」

機会になった。それぞれの取材の様子をお届けしたい。 近隣地域のイベントを取材した。 肌で感じる窓年前 年から8周年という節目の年。錦城で行われた夏期講習や、 「広島今昔物語 戦後80年について、

大きくなってから見せたいと す森本先生。今度は子どもが い、錦城生に対し「これから (63回生編集部)

域 また戦争当時を考える

なく、一部の人のエゴで終民が幸福を得られることは 肌で感じることができ、 像作品を見ることも、 の生活、文化、価値観の違いを ってしまうことを挙げた。 森本先生は今回のように映 戦時中 大切



井口 第496号

印刷

錦城高等学校新聞委員会 編集室 2025

みんなでつくる 錦城高校新聞

> 面 面 夏期講習 西東京市講演会で得る学び パンプキン爆弾ってなんだろう? 小平市ワークショップに参加 錦城で学んで考える 平和

生で原爆ドームを見ても

ことを知り、

自分事として考

えていくのが大切だとした。

語り、今の私たちが80年前のの積み重ねになっていく」と がやっていることはこれから

だと教えてくれた。「今の我々

14日(木)、小平市小川公民館でジュニア講座「戦後80年・戦争 と平和について考えよう」が開催された。取材依頼に快く応じ き、小中高生ら計8名が参加した講座に編集部も参加した

に訪れたフィリピンのネグロス島で、夫を日本兵に殺された から言われた「何で来たんだい!日本人なんて見たくなかった…」 う一言だという。以来、BFP では元日本兵の方々の言葉をフィリピンへ 届ける活動を行っている。シャープ茜さんは BFP の講演に初めて参加し



「戦後80年・戦争と平和に

ぐのは戦争を知らない私 たち」というテーマでワークショ ップが開催された

た際、戦争中にフィリピンを侵略したという歴史をそれまで知らなかったことに責任を感じたそうだ。その経験 からフィリピンや日本で戦争の体験者の証言を聞き、戦争を知らない世代に伝える BFP の活動を続けている。

記録映像 日本からフィリピンへ

フィリピンの方々と元日本兵の方々の言葉が記録された映像を視聴。50 年経っても夫の遺体が見 つからない、と悲痛な表情を浮かべる女性の話から始まった映像。畑を焼かれた、親族が銃剣で刺され亡くなっ たなどのフィリピンの方々の話や、非国民だと指をさされるのが怖かった、父親が亡くなる間際まで悔やんでし たなどの元日本兵や家族の話が記録されていた。シャープ茜さんは、戦争の加害者も傷ついているということや

お互いの考えを交換した。 もしフィリピン人だったらという問いに、市内の高校2年生の男子生徒は「死んでし



います」とシャープ茜さん(右)

まった人は帰ってこないので、私は赦せないです」とのこと。また参加者の保 護者は、「未来に一歩踏み出すためには、赦すっていうか、分かり合っていく しかないと思います」と話した。何をされても赦せない、いくら反省しても殺 された気持ちは変わらないなどの意見も出た。

もし日本兵だったらという問いに対しては、市内の女子小学生が「普通の 喧嘩は話し合いをすれば済むのに、なぜ話し合いをしないのかと思います」 と武力ではなく言論での解決方法をすべきだったと考察。また、ある小学生 「自分事として考えるといいと思 男子は「人を殺す以前にそもそも戦争をしなければ、だれも悲しまない」と意 見を交わした。

シャープ茜さんにインタビュー 「語り継ぐ大切さ」 講演後、シャープ茜さんに話を伺った。BFP の活動では、取材を申し入れても断られるなど、取材がいつも上 手くいく訳でもなく、フィリピンの戦争体験世代ではやはり日本を許せないという方もいたという。フィリピン では家族の絆が強く、家族内で体験がよく語り継がれることもあるため、子どもたちにも当時の戦争が鮮明に受 け継がれるそうだ。学校でも、日本よりも戦争について学ぶ時間が多いのではないかという。そのような中、視 聴した映像には元日本兵の思いを聞いたフィリピンの方々の「彼らがしたことを赦そうと思います」という声が あった。色濃く記憶を受け継ぎ続ける人々のその一言には、とても複雑な響きが感じられた。関心を持つことが 大切だと話すシャープさんは、「加害の歴史を想像してください。戦争は加害者にも被害者にもなり得ます。戦争 を知った皆さんも語り継いでほしいです」と高校生にメッセージをくれた

多摩地区の空襲について 太平洋戦争中、計122回もの空 襲を受けた東京。多摩地域も多く の空襲被害を受けている(*1)。多 摩地域への主な空襲は、1944 年

11 月から 1945 年 8 月までの約 10 ヵ月で、武蔵野町の中島飛行

機武蔵製作所や立川市の航空機

関連工場・飛行場などに対する爆

撃が続いた。八王子市では 1945

年8月2日、市街地が焼き払わ

れる八王子空襲が行われた(*2)。 多摩地区の空襲では西東京市

の被害が多く、同期間で計 17 回

の空爆があった(*3)。小平市にも

B29 による計 7 回の空襲があっ

た。最初の空襲は1944年 12

月3日で、現在の花小金井駅東方

に爆弾が落とされた。線路二か所

が破壊されたほか、陸軍経理学校

内の敷地や町内の畑地が被弾し

*1総務省冊「東京都における戦災の状況」

*2 東京大空襲・戦災資料センターHP「東

*3 西東京市令和元年度活動記録(No. 19)

*4 小平市史編さん委員会編集『小平市史

米軍の中島飛行機周辺の写真

解説板除幕式に同行

「非核・平和はみんなの願い」

ている(*4)。

参考資料

近現代編』

催された。

本講演<

西

日武新宿線

西

1武柳沢駅

近くの 年に平

で戦争被害解説板

の開 後、

それに伴う

現

地見学会・

解説会も行わ

加させていただい

月 2 日

西

[東京市柳沢公民館で

戦

後

80

和を考える講演会」

地元にもあった空襲~「パンフ

軍需工場があ

いう飛行機

0

話を伺つ、

法政

習が

盛んに

行

わ

れて

物を見るた

先生は解説され

丰

講演・見学会後、牛

平和を考え

京市 (当時の

彦先生は、

公民館での#

空襲につ

は戦



講演者の西田さん、西東京市市長、教育長と一緒に記念撮影

で行の

長の

話を聞くうちに考えが変

考えていたようだ。しかし、

くても

いいのではない

か、 させな

いことなので、思い 小学生は、戦争はつらく、

. 悲し

わり、

最後には「引き継

いでい

ればまた同じことが起

きる」と理 かなけ

と

投下の裏話などをお話す会」の西田昭司さんとされた模擬原爆の記とが、「西東田昭司さん」といいます。 原爆関 会は2009年から あ事 司さんが原爆の記録を確め、「西東京に変 実 を伝える活 話しさ

模擬原爆の記録を残す けて 話す牛 戦争につ 「身近な場所でいいか年田先生は、高校生に 語ってくださっ いて調べて

えること、 うだ。今は難しい

戦

争

たちの視点からも多くの

だった。

池澤市長は、

からの聞き取りで探究したそ い記録のないことを体験者勤労動員にたどり着き、詳

次の世代に戦争のこ

和」は大きな柱

の勤労動員にたどり着き、詳 島飛行機から早稲田実業学校 機を調べ始めた。この時は中 たのは、今から30年前の戦飛行機場について初めて知 めに校外へ出ることもある。り、授業で戦争遺物を見るた 1997年に法政中高 知ることが大事だ 時代だが考 そ 中 島 社会の中で「平 に伝えなければいけないの作文は「なぜ戦争を次の世代 が発表した作文を紹介した。 か」という始まりだった。そのに伝えなければいけないの った。池澤市長は、小学6年生 とを引き継いでいきたいと語 になる、

池澤隆史市長 演会の最後は西 が、 |東京市 れ からの

講演後に解説していただいた

武蔵野市には、中島に見舞われている。 いる。牛田先生によると、西東争遺跡について研究をされて 学中学高等学校教諭の牛田守た。講師の1人である法政大 多摩地区の空襲について 蔵製作所 (以下中島飛行機) と 時中に何度も激し くつも落とされ 1トン爆弾などの爆 武蔵野の空襲と戦 、保谷市、 のり、その工場をいエンジンを作る いての の西東 中島飛行機 隣 前半は、 話であ 京 田無市) 接する い空襲 エリ 武 在の「しじゅうかを中島飛行機が、当初 名前とは さ って た写真を見ると、 いが所に が黒く映り れた爆弾の 、様々なところにその痕跡品に登場する郡山の記述なれた爆弾の破片、太宰治の + 爆投 下

が講演で紹介された。午田村近に落とされた。牛田 パンプキンという可愛らし 8日に米軍によって撮影され 弾によってできたクレー 福島県の瑞龍寺に保存所に落とされているそのンプキン爆弾は全国 たことがうかがえた。 :機から逸ら し出されてお 初の から第二公園 パンプキン 目標で 訓練 牛田先生 上 れて、 年8月 用呼 り、 あ 現

のばれ を見ることができる

多くの人が訪れた講演会

「しじゅうから第二公 (中高では ・田先生に 編集 お 平 田 が とを目 動を続け、 地点に がない。 報をかなり[の大日本帝] 聞いたという証言はたくさん 軍はきっと原爆投下を知って たのだという。その女性は されて四国に渡り、 であった女性に ない んは、 いたんじゃないかと思うんで 父が8月5日に部下に ころ、広島の と言っていたそうだ。これ いて現在は確認する方法 かと語る。 原爆攻撃について当時 が、 標として 「説明板」を設置するこ 模擬原爆落下 り掴んでいたの E国の陸・海軍 原爆投下の 海 海軍少 軍病院にい 話を聞 いる。 難を逃 予告を 将が父 にのでは 連れ出 軍は情 西田 いたと · 爆 発

米議会図書館蔵。牛田先生提供 板には、公開板の除幕式が原子爆弾の独 かがい ずいて5分、講演会の後 て5分、西武時演会の後は、 第 除幕式が行わ 駅近くにある 「園」に移 被害を伝える解説 武 公民館かる しじ 少し、 た。 模擬 ゆう

届く。

戦争を、身近なことから

さんに の破片が見柳沢公民館

西多摩:

を感じに、

際に足を運

て ほ

と思

から学び、

伝

が、

私たちの耳にたくさ

除幕式が行われた

のことを伝えていってほ と講演会を締めく 「子ども 人に 投下され市民ど目にあたり、世 この 向けて、 解説 伝えて える場とするために 後に担 を写真も使いながら事細から 明板を前に爆弾投下 原爆の記録を残す会」 と 歴史を後世に伝え、 して設置した。西田さんが、 の被害などがなといい。 今で 「西東 * 皆様と平和 と締めくくっ * 担当の市の方が参加者はしてくれた。除幕式の見 害などが書かれている。須弾が落とされたことやそ 解説板は、 いただけ * 説明 京に 一戦や紛争 氏が犠牲となった 模擬原子爆弾が の尊さを一 板をきっかけ 落とされた模擬 戦後 れば で西東京市 と思 Ď 時 80 一が協力 の伝聞 年の ニ ュ 説

> 資料に れた。

によると、

あげるためなのだという。まれたのは爆撃手たちの士気を



柳沢公民館に展示されている 250 キロ爆弾の破片

Man) 長崎に

同形状に

作

5

れ

(Fat てお

いな

いことや

た、

崎に投下された原爆()、模擬原爆という名の通

通

0

れた原爆

だといる

一般片が展示され が民館には、 ないう。講演会 はないう。 ははは、 はが入ってい

されている。皆似会が行われたはほとんど同じ

に西東京市"市に隣接する西東京市、平和を考"原爆「パンプキン爆弾性となった"計49か所に落とされ とされたこの 《平洋戦争中に目 爆弾は 弾」。小平れた模様 米軍の にも落 た。「パンプキン爆弾」原爆投下訓練にて使 練にて使用さ ハボチャのカ 0000ポン -ムであり、 と は 実の れ

してい.

。それだけ

ならば、

爆

心要,

タ収集も目

的

データは採れる。 薬を用いずとも投下に

L

かし、

パパシ

チン

講演会では

実弾が用に実弾が用い

ならの

先生

にも落正式名称は「100小平 名前はコードネーム

弾

巨体から、「

パ

ンプキン

爆弾

· 塗

装され

た丸

こいう名前が

つけ 投下

5

ぁ

爆弾は のデー た。

練の

THE PERSON 掘り出された銃剣の一部

西東京市郷土資料館で知る 近隣地域の80年前

錦城から自転車で約 15 分の西東京市西原総合教育施設の2階にある 西東京市郷土資料館では、8月31日(日)まで「身近にあった"戦争資 料"」が展示されていた。8月14日(木)、編集部は西東京市郷土資料室 を尋ね、文化財指導員の渡邊明徳さんに話を伺った。

西東京市(戦争当時は保谷市と田無市)は多摩で最も空襲を受けた地 域。戦闘機の隼や零戦などのエンジンを製造していた東洋1の規模を誇 った航空工場、中島飛行機武蔵野製作所が近くにあり、またその下請け の関連工場も多く存在したためだ。特に1945年4月 12 日の空襲で は、中島飛行機工場をそれた1トン爆弾が西東京市の広範囲に散らばり、 100 人以上の犠牲者が出たと話してくれた。現在の田無駅北口 では、近 くに落ちた爆弾によりコンクリート製の防空壕が崩壊。 性子どもを中心に、30人もの方が生き埋めとなり亡くなった。 この目の



「戦争の悲惨さを知ってほしい」

ことを忘れずに、繰り返さないために、現在田無駅北口ロータリーに平和のリングが設置されている。渡邊さんは平和の リングのそばで空を見上げ当時を想像することが多いと言い、避難しようとして田無駅付近から青梅街道まで飛ばされて しまった子どもや、飛ばされて木の枝に引っかかった女性の着物などが目に浮かぶそうだ。

地域の戦争を伝えるためには

中島飛行機工場で製造されたエンジンは試運転のためにトロッコで現在の住友重機械工業 田無製造所まで運ばれた。 合格判定を受けたエンジンは中島飛行機工場に戻ってきた後、武蔵境駅までトロッコで、その後鉄道で群馬県太田市に運 ばれ機体につけられた。しかしそんな方法でエンジンを運べたのはたったの半年。アメリカの偵察機により地図に起こさ

> 🏅 れ、レールを狙って爆弾が撃ち込まれ壊されてしまった結果、トロッコを使い運ぶ ことが難しくなり、その後はトラックで運ぶようになった。解説版を指さしながら、 「このようなところからも、戦時の日本とアメリカの力の差が読み取れる」と渡邊 さんは解説してくれた。

また資料館には、2年前の2018年7月27日に田無小学校で発見された武器の -部も展示されていた。これは、管理棟の移設工事のために校庭を掘り下げていた ところ、地下から発見されたものだ。宿場町として栄え、当時北多摩の中心的な立 ち位置だった田無。渡邊さんによると、終戦後、三鷹、小平、清瀬など近隣の地域で

訓練用として使用されていた武器を田無警察に集めるよう、GHQ より指令が入 り、集められた1400挺もの鉄砲などが、田無小学校の爆弾によって空いた 深さ1メートルの穴に入れられ、ガソリンをかけ燃やされていたという。だん だんと戦争遺跡が開発などで減ってきてしまっていると寂しそうにする渡邊 さん。レジュメを手に取り、「レジュメの表紙にあるように『"戦争の悲惨さや 平和の大切さ"を地域の歴史から考えよう!』と高校生にも伝えたい。身近な ところから戦争について考えて、記憶をつないでほしい」とメッセージをくれ た。身近な場所にも戦争を考えるきっかけが残っている。地域に残された遺跡 に目を向け、先人の思いにこたえていきたい。



戦争被害を解説してくださる渡辺さん